



国立大学法人  
和歌山大学

2018

## 地域インターンシッププログラム活動報告書



### **Local Internship Program (LIP)**

地域が抱える課題を住民とともに発見し、

その解決方法を考える

和歌山大学観光学部



## はしがき

和歌山大学観光学部における「地域インターンシッププログラム (LIP)」の取り組みは、2008 年度に開始されて以降、これまでに 115 件のプログラムが実施され、延べ 1200 人以上の学生が地域での様々な活動を通じた実践的な学びの機会を得ています。現地を訪れ、地域の方々とともに課題に取り組むなど密度の濃い交流を続けた結果、なかには数年にわたる継続的なプログラムに発展する活動もみられるようになりました。学生の受け入れやプログラムの実施にご尽力いただいている地方自治体や関係諸団体の皆様のご支援とご協力に心から感謝申し上げる次第です。

さて本学部は、2016 年度から、「観光経営」「地域再生」「観光文化」の 3 つの基本領域を軸として教育体系を再編成し、これらの領域を融合的かつ横断的に学ぶカリキュラムをスタートしています。本カリキュラムにおいては、高度な専門性を発揮できるようになること、そして、現場での創造的実践力を獲得することを目標に、国際性を高める教育と国内外の地域の諸課題に取り組む実践型教育をこれまで以上に重視しています。

このようなカリキュラムの導入により、地域を訪ね現場で起きている事柄を身をもって学ぶことができる LIP は、観光学部の実践型教育の一翼を担う取り組みとして、もはや欠かすことのできない位置を占めています。今後は、これまでの成果と経験を活かしつつ、地域課題に則したプログラムを実施できるよう日々改善を図り、さらに質の高い地域連携活動へと発展させていく所存です。

今後とも、LIP の活動に一層のご支援ご協力を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

2019 年 3 月

和歌山大学観光学部

地域連携委員会 永瀬節治



## 目次

はしがき .....	1
目次.....	3
1. LIP の概要とこれまでの歩み .....	4
1) LIP の概要 .....	4
2) データから見る LIP の歩み .....	5
2. 2018 年度 LIP 活動報告 .....	8
1) 和歌山県岩出市.....	10
2) 和歌山県紀の川市.....	12
3) 和歌山県海草郡紀美野町 .....	14
4) 和歌山県海草郡紀美野町 .....	16
5) 和歌山県有田市.....	18
6) 和歌山県有田郡広川町 .....	20
7) 和歌山県西牟婁郡上富田町.....	22
8) 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町.....	24
9) 和歌山県全域.....	26
10) 大阪府阪南市.....	28
11) 和歌山県有田郡有田川町.....	30
12) 和歌山県日高郡日高川町および伊都郡かつらぎ町 .....	32
13) 岩手県胆江地方および和歌山県 .....	34
参考資料.....	36
1) LIP リーフレット「地域に観光を学ぶ」 .....	36
2) LIP の沿革 .....	38

## 1. LIP の概要とこれまでの歩み

### 1) LIP の概要

和歌山大学観光学部では、和歌山県内及び大阪南部の市町村などの協力のもと、地域が抱える課題を地域住民とともに発見し、その解決方法を考える「地域インターンシッププログラム」（通称：LIP<sup>1</sup>）を実施している。本プログラムは、地域活性化に関心をもつ学生が、現地に足を運び、地域住民と連携することによって地域の課題や調査活動に取り組むもので、「学生と地域を活性化したい」、「地域の魅力を発見したい」といった地域からの提案を受け、毎年複数の活動を実施している。

LIP に参加する学生は、学内の事前学習や現地視察を通して地域の実情を学び、さらには現地調査や地域住民との交流、イベントの企画運営などを通じて、それぞれの地域の真の魅力や課題と向き合っていく。具体的なプログラムとしては、観光施設の職員や利用者への聞き取り、宿泊施設や農家民泊のモニター、集客イベントの企画運営、観光資源調査やマップ作成、就業体験などに取り組んできた。

「この地域にはどのような観光資源があるか」、「埋れている観光資源はないか」、「観光資源が有効に活用されているか」、「どうすれば地域が元気になるか」。こうした課題に対して、地域住民は生活者の視点から、学生は「ヨソ者」の視点から意見を出し合い、ともに活動をしていく。このような対話や活動が、双方にとって新たな気づきの機会となることもこのプログラムの特徴である。

LIP は、こうした相互作用を通じて、地域住民は「ヨソ者」の力を活かしながらより自立的なまちづくり活動を行う力を、そして学生は地域住民の思いを理解しつつ、地域活性化の方法を提案できる力を養い、地域を支える人材として活躍することを目指している。

上記の趣旨を踏まえ、本プログラムは、学生が、「地域の方々と交流を図りながら、観光振興や地域再生の実践を現場で学ぶ」ことができる内容を含むことを実施の要件としている。

なお、LIP には、和歌山県内及び大阪南部の市町村など、地域から学生が地域再生や観光振興の現場を体験できるプログラムを公募するタイプ（公募タイプ）と、観光学部の専任教員が、地方公共団体などとの共同研究などを通じた連携のもとにプログラムを申請するタイプ（申請タイプ）の 2 タイプがある。

また、LIP は 2012 年度より単位として認定されている<sup>2</sup>。地域での活動が授業として開講され、単位化されたことは、学生にとっても地域活性化への関心をより広げる契機となっており、学生の参加意欲向上にも寄与している。

---

<sup>1</sup> 2011 年に RIP（Regional Internship Program）から LIP（Local Internship Program）に改称。

<sup>2</sup> 単位取得のためには事前事後学習を含めて 30 時間以上の活動が求められる。活動時間に応じて、9 期生以前は「地域観光実習」、10 期生以降は「基礎自主演習」または「プロジェクト自主演習」の単位が認定される。

## 2) データでみる LIP の歩み

観光学部で実施している LIP は 2018 年度で開始 11 年目を迎えた。ここでは、これまでの LIP の歩みについて、データをもとに示してしていく。

表 1 は、2008 年度以降の年度別実施プログラム数を示している。年度ごとのプログラム数にはばらつきがあり、最多 21 件（2016 年度）、最少 3 件（2010 年度）となっている。2011 年度からは、観光学部専任教員からの申請により実施される申請タイプが創設され、プログラム数が安定するとともに幅広い活動が可能となっている。

表 1 年度別プログラム数

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合計
6	8	3	4(1)	11(5)	5(2)	10(3)	15(6)	21(7)	19(4)	13(3)	115

※カッコ内は申請タイプのプログラム内数

次に、図 1 は年度別の参加学生数を示している。参加学生延べ人数は、2014 年に 100 名、2016 年には 200 名を超えるなど、増加している。これは、実施プログラム数が増加したとともに、プログラムあたりの定員規模の拡大が起因していると考えられる。ただし、全プログラムが一様に拡大傾向を示しているわけではなく、現状では、大規模のものと小規模のものが並存する状態にある（2018 年度は最少 6 名、最大 34 名）。この点は、プログラムの内容など、地域の課題やニーズに即したかたちで活動が実施されていることが影響している。

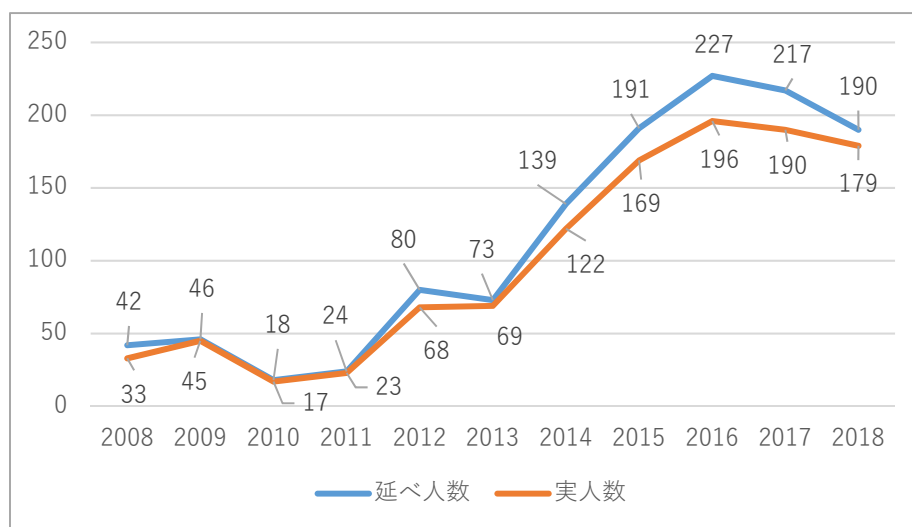


図 1 年度別参加学生数

表2に示した通り、学年別の参加学生数は1回生がもっとも多い。低学年次から地域での活動に関心を持ち、積極的に地域と関わりたいと考える学生が増加していることを示している。このような傾向は近年みられるようになったもので、図2のように、プログラム創設初期は2、3回生の参加が中心であった。

また、4回生の参加者がみられるようになったことも近年の特徴である。これは、単年度のプログラムではなく、同様の地域において継続的に実施するプログラムが増加していることが要因であると推察される。

表2 学年別参加学生数

	1回生	2回生	3回生	4回生
延べ人数	1247	463	418	279
<b>実人数</b>	<b>1111</b>	<b>437</b>	<b>370</b>	<b>79</b>

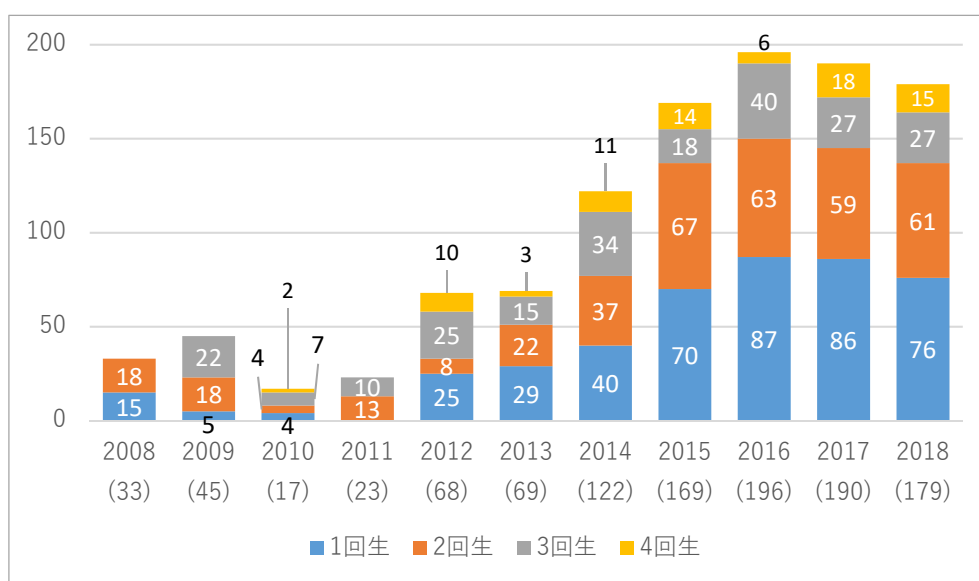


図2 学年別参加学生数の変遷 (実人数ベース)

次頁図3に示すのは、プログラムあたりの平均参加学生数である。先に述べた定員規模の拡大によりプログラムあたりの平均参加学生数が増加傾向であったが、近年は小規模のプログラムが多く実施されていることもあり、徐々に減少傾向にあった。2018年度は、定員規模の大きいプログラムが複数みられたことで、増加に転じている。

また、次頁図4に示すように、プログラム数および定員規模が拡大したことにより6期生以降、参加者数は飛躍的に増加している。特に11、12期生は来年度以降も新たに学生が参加する可能性があるため、この傾向はより顕著になると予測される。



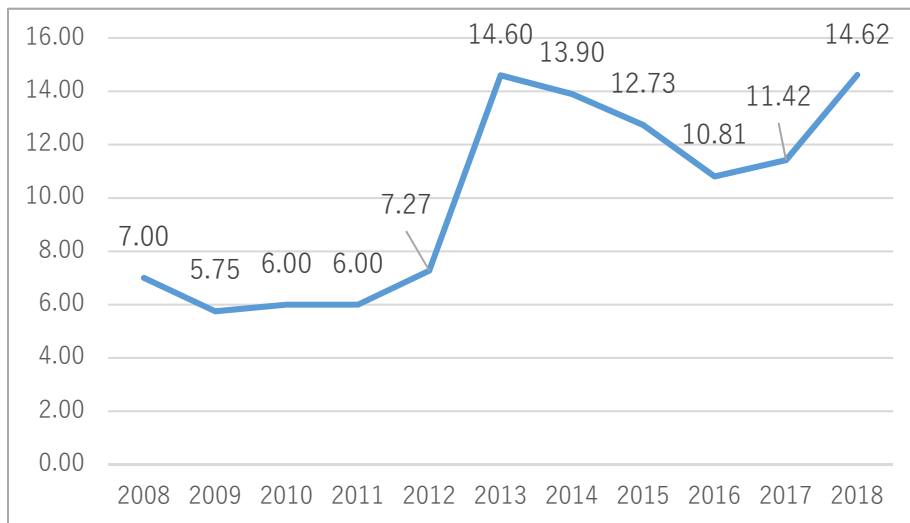


図3 プログラムあたりの平均参加学生数（延べ人数ベース）

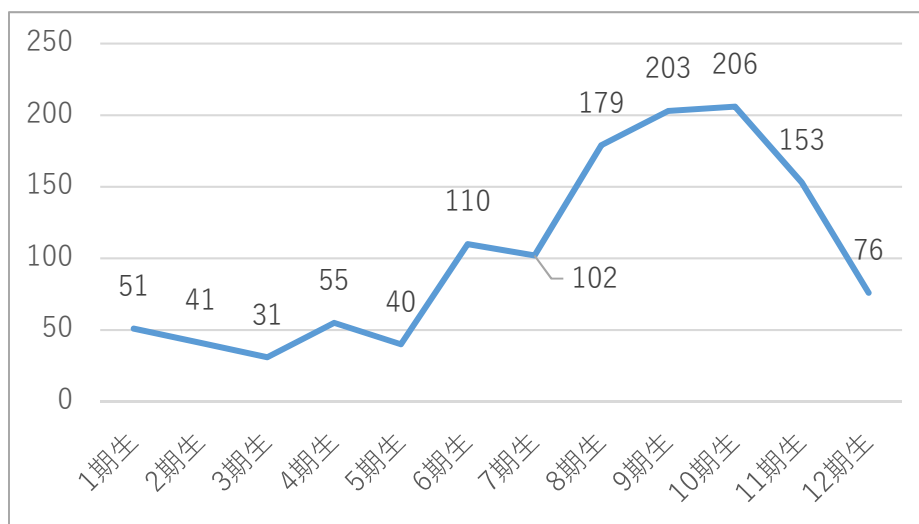


図4 期生ごとの参加者数の推移

以上のように、開始から11年が経過した本プログラムは、参加学生数ならびにプログラム数が安定していることから、参加学生および地域からのニーズを汲み取った活動が展開されているとみることができる。しかしながら、今後も継続的に本プログラムを実施するにあたっては、それぞれの取り組みの質の向上と学生自身が学びをより深めることができるプログラムを提供することが求められている。

（文責：観光実践教育サポートオフィス 藤井 至）

## 2. 2018 年度 LIP 活動報告（一部抜粋）

2018 年度は、13 プログラムが実施され、延べ 190 名の学生が地域で活動を行った。以下に示すのが今年度の実施プログラムの一覧である。

No	地域名	テーマ	参加 学生数
1	岩出市	SNS を利用した地域資源再発見と訪れてみたくなるコンテンツ作り	10
2	紀の川市	紀の川スイーツの開発	7
3	紀美野町	地区×学生による知られざる歴史掘り起こしと観光・文化・交流情報発信	22
4	紀美野町	世代間交流を推進する地域拠点の企画・運営 (コミュニティカフェでの実践を通じて)	10
5	有田市	地域で働く人の魅力を子どもたちに伝える	7
6	広川町	津木地区寄合会の運営、特産品開発、情報発信、イベントを共に考える	16
7	上富田町	笑顔が広がる美しい里づくり	6
8	那智勝浦町	地域の文化や風習、そこで暮らす人々と直にふれあいながら、これからの地域・自分・社会のあり方・つながり方を考える	10
9	和歌山県全域	「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」 大会参加者に対する観光ツアーの開発	9
10	大阪府阪南市	地方創生にかかる地場産物商品に関する調査・研究、 デザイン考案等	14
11	*有田川町	学生との協働による継続的な棚田保全活動体制の構築	34
12	*日高川町および かつらぎ町	「体験教育旅行&夏学習～都会と大自然の出会い」	13
13	*岩手県胆江地方 および和歌山県	農村ワーキングホリデーを活用した都市農村交流の 「鏡効果」と農村再生手法としての可能性の検証	32

※\*は申請タイプのプログラム





## 和歌山県岩出市

### SNS を利用した地域資源再発見と訪れてみたくなるコンテンツ作り

---



#### 【地域の基礎データ】

人 口：53,901 人（平成 31 年 1 月末現在）

面 積：38.51 平方キロメートル

高齢化率：19.5%（平成 27 年 1 月 1 日現在）

産 業：製造業、農業 など

観光資源：根来寺、旧和歌山県議会議事堂 など

#### 【活動の基本情報】

参加学生数：10 名（1 回生：6 名、2 回生：4 名）

活動期間：平成 30 年 5 月～

担当教員：永井隼人

---

#### 1. 活動実施の経緯

岩出市は根来寺や緑花センターなどを有し、また近年では道の駅「ねごろ歴史の丘」を中心に観光振興に力を入れている。しかし、岩出市は都市部で働く人のベッドタウンとしての側面も持っており、市内の見どころを知らない人が多いのも事実である。そこで、岩出市産業振興課からの提案により、学生目線で新たな魅力（フォトジェニックな場所）を発掘し、SNS を活用した情報発信に取り組むこととなった。

#### 2. 活動の内容

参加学生は複数回岩出市を訪問し、岩出駅からレンタサイクルで移動できる範囲を活動範囲として、岩出市の新たな魅力発見のために活動を行った。学生が撮影した写真は若者を中心に利用者が増加している SNS の一つである Instagram を利用して発信した。なお、Instagram アカウントは岩出市産業振興課により本 LIP 用に新たに開設されたものを利用した。

#### 3. 活動を通じて

SNS を活用した情報発信という観光マーケティングで重要になってきているテーマの活動に実際に携わることにより、参加学生は SNS による情報発信について学ぶと同時に、その難しさも学ぶ機会となった。LIP での活動内容や、活動を通じて明らかになった課題や今後の提案についてはポスターにまとめ、岩出市に提出した。

#### 4. 成果物など

### 地域インターンシッププログラム（LIP）和歌山大学観光学部 × 和歌山県岩出市 SNS を利用した地域資源再発見と訪れてみたくなるコンテンツ作り

井上こころ 大前佑奈 片岡梨乃 桂喜美 井上巧稀 植田晴香 立花浩暉 出井敬太 棚野竜基 枅竹菜々美

#### 🔍 岩出市について

岩出市は、和歌山県北部に位置する市。  
面積約 38.5 km<sup>2</sup>、人口はおよそ 54,000 人。  
根来寺や緑花センターなどを有する他、道の駅「ねごろ歴史の丘」を中心に観光振興に力を入れているが、都市部で働く人たちのペットタウンと化している側面も見られ、地域への愛着や地元の見どころを知る人が少ない・・・。



#### 📷 LIP の目的



若者を中心に様々な人が利用している SNS、Instagram を用いて、学生らしい視点で岩出市の「フォトジェニック」なスポットを探索・発信することで岩出市の地域資源を再発見し、その魅力をより多くの人に知ってもらおう。

活動期間：2018年7月～11月 岩出市への総訪問数：13回



#### 📷 活動内容



岩出駅からレンタサイクルで移動できる範囲内でフォトジェニックなスポットを撮影後、岩出市役所産業振興課との Instagram コラボアカウント (@kanko\_iwade) で写真を多数投稿し魅力を発信していく。

(アカウント先 URL : [https://instagram.com/kanko\\_iwade?utm\\_source=ig\\_profile\\_share&igshid=17zm2dm14s506](https://instagram.com/kanko_iwade?utm_source=ig_profile_share&igshid=17zm2dm14s506))

#### 📷 反省&改善点



市役所の方や地元の方とのコミュニケーション不足であった。今後の活動がある場合は、職員の方との連携を強化し、方向性をさらに固めていく必要がある。また、より多くの人に岩出市の魅力を知ってもらうためには Instagram のみだと発信力が弱いため、Instagram 以外の媒体での PR も今後の活動において取り組むべきである。LIP の活動では移動手段が自転車であったため、活動範囲に限界があった。今後は市役所の方などと連携しながら新たなアプローチ方法を模索していくことも必要だと感じた。



# 和歌山県紀の川市

## 紀の川スイーツの開発



### 【地域の基礎データ】

人 口：62,682 人（平成 30 年 12 月末現在）

面 積：228.21 平方キロメートル

高齢化率：28.6%（平成 27 年 1 月 1 日現在）

産 業：農業（桃・柿・キウイ・いちじく） など

観光資源：貴志駅（たま駅長）、青洲の里、粉河寺 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：7 名（1 回生：7 名）

活 動 期 間：平成 30 年 5 月～

担 当 教 員：竹田明弘

### 1. 活動実施の経緯

紀の川市は、もも、イチゴ、はっさくなど県内屈指のフルーツ王国としての顔を持っている。また、同市内にはめっけもん広場という農産物を販売するファーマーズマーケットも存在する。このように生産・販売ベースでは一定の実績がある。近年では、これらの実績をふまえて、紀の川フルーツツーリズムというプロジェクトを立ち上げ、フルーツ王国として知名度を県内外に高めるための活動を行っている。これら紀の川市の一連の活動を考慮し、本活動ではフルーツを使用したスイーツを開発することで、紀の川市に貢献することを目的として実施された。

### 2. 活動の内容

上記の問題意識をふまえて、ここでの具体的な活動内容は、株式会社 藤桃庵、MAISON FLEURIR の 2 店舗のそれぞれと共同で顧客評価の高いスイーツを開発販売することである。各店舗に提案するスイーツは単なるブレインストーミングによるものでなく、マーケティングの基礎知識をもとに、実際に人気店の事例調査、SNS サイトなどの統計解析なども行った上で実施する。活動はおおよそ以下のスケジュールで実施した。

5 月～7 月 マーケティングに関する基礎学習

7 月～9 月 人気店の現地調査

10 月 食ベログランキングを利用した統計解析

10 月～ 分析結果をふまえたスイーツ開発

11 月～ 共同開発店舗との打ち合わせ

- 2月 完成品の試食・評価
- 3月～ 最終商品の確定・販売

### 3. 活動を通じて

紀の川市役所、株式会社 藤桃庵、MAISON FLEURIR の協力により、活動は比較的順調に進行した。また、本活動では5月～2月の学期中、ほぼ毎週1度、ミーティングが行われた。学生はこれらのミーティングに参加するだけでなく、積極的に情報収集し、課題についてのディスカッションも行われた。

プロジェクトを開始するにあたって、マーケティングやデータ分析の技法などの基礎学習も行った。プロジェクトメンバー全員が1年次生ということもあり、基礎学習のフェーズでは苦労したと思われるが、一生懸命学習しようとする姿勢が見られた。また、学生は製菓の専門技術を学んでいるわけではない。どのような素材を組み合わせたら美味しいスイーツが開発できるかという点では不十分な側面もあった。ただし、これについては当然であり、次年度以降の課題としたい。

本活動を通じて、成功する商品を開発するためには、単に意見を出し合うのではなく、データやエビデンスに基づいて思考することが重要であるという思考のプロセスを少し学習したと思う。また、自らが提案したスイーツが実際の商品として開発され、店頭に並ぶまでのプロセスを経験することによって、商品開発の基礎知識や課題について学習したと思う。今後の学生生活における学習につなげて欲しい。

最後に、学生はまだ未熟な点もあり、不十分な側面もあったと思うが、紀の川市役所、株式会社 藤桃庵、MAISON FLEURIR のサポートによって、実際の商品の開発まで結びつけることができた。関係の皆様には謹んで感謝したい。

### 4. 成果物など

株式会社 藤桃庵、MAISON FLEURIR の2店舗で発売される商品が最終成果物になる。ただし、製品の発売はスイーツの購入が増加し始める3月以降を予定しており、当初からその計画で本活動は進行された。本報告書執筆時では、候補商品の試食と修正のフェーズである。従って、最終的に販売されるスイーツがどのようなものになるかについては未確定な状況である。現在、藤桃庵では、3月～6月の期間で異なるイチゴパフェ(合計5商品)を販売する計画を立てている。FLEURIR では、3月にイチゴを使用したパンベースのスイーツを販売する計画を立てている。





# 和歌山県海草郡紀美野町

## 地区×学生による知られざる歴史掘り起こしと観光・文化・交流情報発信



### 【地域の基礎データ】

人口：8,967人（平成30年9月末現在）

面積：128.34平方キロメートル

高齢化率：41.4%（平成27年1月1日現在）

産業：棕櫚製品製造業、農業 など

観光資源：生石高原、みさと天文台、野上八幡宮 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：22名（1回生：6名、2回生：6名、3回生：6名、4回生：4名）

活動期間：平成30年4月～

担当教員：佐野楓

### 1. 活動実施の経緯

本プロジェクトは、和歌山大学観光学部が数年前から取り組んできている地域インターンシップの一つである。昨年度まで4年間に渡り、紀美野町の上神野地区で活動してきたこのLIPは、本年度は地域を新たに紀美野町の小川地区で活動を進めてきた。紀美野町の小川地区は6つの大字が集まった地区であり、江戸時代の紀州領と高野山領の協会の集落で掘り起こしたい歴史が数多く眠っている。現在移住者ものづくりの会「クラフトバレイ」さんが、観光案内マップ「小川フットパスマップ」を準備中で、それを機に「地元目線」と「外の目線」の良いところ取りで、活性化に繋がられることは、本プロジェクトの最大の目的である。

### 2. 活動の内容

活動内容としては、小川の郷づくり会の方々が開くイベントのお手伝いや、生石山のふもとにある直売所のお手伝いであった。

参加した大きなイベントは2つあった。1つ目は秋祭りでの焼き鳥の販売である。何か学生考案で催し物をとという依頼のもと、小川地区の特産品である山椒を使った焼き鳥を販売した。地域おこし協力隊の方、役場の方、小川の郷づくり会の代表の方に和歌山大学に足を運んでいただき、ミーティングや試食を行った上で秋祭り当日を迎えた。使った山椒は、小川の郷づくり会の会員の方が、育てた山椒をフレーク状に加工したものである。大変美味しいと地域の方々に好評であった。



2つ目は、冬まつりである。冬まつりも秋祭り同様準備段階からお手伝いをしてきた。小川小学校にある35メートルと25メートルのメタセコイヤのイルミネーション飾りつけに加え、グラウンドにたくさんの竹灯籠を並べた。また当日のお餅まきに向けて前日に餅つきに参加した学生もいた。当日の内容としては、1回生はカラオケ大会の司会を担当し、2・3回生は秋祭りと同じく焼き鳥の販売に加え、ぜんざいの販売などのお手伝いをした。一緒に活動している小川の郷づくり会の会員さん以外の地域の方々と会う貴重な機会であったが、そこで積極的に話をする余裕がなかったことが課題として挙げられた。また冬まつりに参加した多くの学生が風の森という民泊施設に泊まった。

最後に、1月末に学生から役場の方に依頼をし、冬まつりでの課題に取り組むべく、まち歩きを実施した。まずは地域について知らなければどのようにLIPとして学生が活動をするべきかわからないという意見が学生内で多くあったことから、地域のお宅を二軒訪問させて頂き、小川地区の歴史についてお話を伺った。

### 3. 活動を通じて

今回の活動では、自治体が抱える「地区に眠っている歴史の掘り起こし」という課題に触れ、生石高原の最高の魅力を探ることができたと思う。また、地域の方々が話し合いをして、足並みを揃えて活動していくのは、本プロジェクトに参加した学生たちが学ぶことができた。

### 4. 成果物など



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

写真1：秋祭りでの山椒やきとり販売／写真2：冬まつりにて地域の方にご挨拶@小川小学校／写真3：古民家風の森にて七夕の飾り付け／写真4：冬まつりにて集合写真@小川小学校／写真5：小川小学校での冬まつりの様子／写真6：地域の方とフットパスマップについて意見交換

# 和歌山県海草郡紀美野町

## 世代間交流を推進する地域拠点の企画・運営 (コミュニティカフェでの実践を通じて)



### 【地域の基礎データ】

人 口：8,967 人（平成 30 年 9 月末現在）

面 積：128.34 平方キロメートル

高齢化率：41.4%（平成 27 年 1 月 1 日現在）

産 業：棕櫚製品製造業、農業 など

観光資源：生石高原、みさと天文台、野上八幡宮 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：10 名（1 回生：3 名、2 回生：5 名、3 回生：2 名）

活動期間：平成 27 年 4 月～

担当教員：藤井至

### 1. 活動実施の経緯

紀美野町では、平成 27 年度より、認知症当事者やその家族、地域住民などが気軽に集い、交流することを目的に、認知症カフェ「きみの\*にこ cafe（以下、にこカフェ）」を開催している。このカフェは、町内のコミュニティカフェを活用して月に一度実施されるもので、年齢、性別を問わず多様な人々が訪れることで、カフェ参加者の認知症への理解が促進されることが期待された。しかし、少子高齢化が進む同町において、若年層の積極的な参加は困難なため、LIP を活用し、大学生が継続的にカフェに関わる手立てを検討することとした。

### 2. 活動の内容

本プログラムは、にこカフェの取り組みを中心としながらも、同町において貴重な世代間交流の場をいかにして作り上げるか、また、既存の世代間交流の場をいかにして維持・運営していくことができるかについて考えることをねらいとした。学生の主な活動は、①にこカフェの企画・運営への参画、②ふれあい昼食会の企画・運営への参画、③こども食堂（以下、キノコ食堂）の企画・運営への参画、④学童保育への参画とイベント企画である。

### 3. 活動を通じて

今年度からは、従来活動を行っていたにこカフェ、ふれあい昼食会、学童保育にキノコ食堂の活動が加わったこともあり、より活動が充実した年であった。特に、キノコ食堂は、地域が新たにはじめた取り組みであり、地域とともに模索しながら活動を実施してきた。LIP においては、既に完成されているプログラムやイベントを継続的に行うケースが多いなか、



新たに作り上げる取り組みは学生にとっても得がたい経験になっていた。今後も、それぞれの活動の支援を行い、同町における世代間交流の場を充実させていくことを目指したい。

#### 4. 成果物など

NIKO  
CAFÉ  
LIP
 

テーマ：世代間交流を推進する地域拠点（コミュニティカフェ）の企画・運営  
活動地域：和歌山県海草郡紀美野町（吉見地区）  
2018年度メンバー：1回生3人 2回生4人 3回生2人

にこカフェ LIPって何するの？  
私たちにこカフェ LIPは、和歌山県紀美野町を起点に、学童やにこcafé等への訪問を通して小さい子供からご年配の方まで幅広い世代間交流を行います。そして認知症という誰もがなりうる症状について認知症サポーター養成講座という講座を受講学習したのち、その経験を活かして子どもたちへ認知症という症状についての学びのサポートをするともに、子どもたちとご年配の方をイベント等を通じてつなぐような活動をしています。学童やにこcaféの定例的なイベントはもちろんのこと、夏祭りやクリスマス会といった季節の行事や今年度から始まったキノコ食堂（紀美野子ども食堂）などにも参加しています。

2018年度の活動 

**●認知症カフェ「にこcafé」（二回生 森彩那）** 

認知症カフェ「にこcafé」では、紀美野町に住むお年寄りやデイサービスに通っておられる方とお茶を飲みながらお話をします。にこcaféに来られるお年寄りの方には、少し話しただけでは認知症とはわからないような方もいれば、自分が今日どこから来たのか忘れてしまう方までいらっしゃいます。私は初めの頃は認知症の方とどう接すれば良いのかわからなかったのですが、聞き手に回りながら気負わずに自分の話したいことを伝えれば興味をもって聞いてくださるとわかりました。お年寄りの方は学生のような若い人と話す機会も少ないので普段とは違う刺激を受け、楽しそうな表情をみせてくださるなど、私たち大学生が皆さんとお話することに意味があることも教えていただきました。にこカフェの活動を通じて、地域の活性化は人との交流があってこそだと思います。

**●ふれあい昼食会（二回生 本田侑子）** 

にこcaféでお世話になっている「ふれあい広場紀美野」での新たな活動として、昨年の3月からふれあい昼食会を始めました。普段のにこcaféに来ている方から近くに住んでいる方で、たくさんの方がお昼ごはんを食べに来られます。私たちの主な活動は、デザート作り、盛り付け、配膳です。私は特に、いちご大福作りが思い出に残っています。みなさんに「美味しい」と言ってもらえることができて嬉しかったです。また活動後には、「ふれあい広場紀美野」の方々と私たち大学生、紀美野町社会福祉協議会の運営者の方とミーティングを行っています。ミーティングでは今回の反省点や紀美野町の近況、次回の献立を話し合います。運営者側に立ち、少しでも紀美野町の課題を改善できるお手伝いができれば嬉しいです。

**●夏祭り（二回生 今清水花奈）** 

今年の8月ににこカフェにて保育園の子どもたちと地域の方々と夏祭りを行いました。私たち大学生が事前に用意した夏まつわる〇×クイズや花火をモチーフとした手形工作、スーパーボールすくいをして遊び、最後は子どもたちからハンドベルの演奏と歌を披露してもらいました。遊びも演奏も全力で取り組む子どもたちの姿がとても可愛らしかったです。そして何より、そんな子どもたちの様子を見て楽しそうに見守られる地域の方々の姿が印象的でした。世代間交流を図ることを主とする本LIPの活動のやりがいを感じた1日になりました。

**●認知症サポーター養成講座（二回生 今清水花奈）** 

ケアマネージャーの方に認知症とはどのような症状なのか、認知症の方とはどのように接したら良いのか等をパワーポイントやビデオを用いてわかりやすくレクチャーしていただきました。受講終了後は認知症サポーターの証であるオレンジリングもいただきました。私自身2回目の受講ではありましたが、ケアマネージャーの方にレクチャーしていただいたのは今回が初めてだったため、貴重な体験になりました。受講ビデオの中に町ぐるみで認知症の方の生活を見守るという内容のものがあり、認知症の方々が当たり前の日常生活を当たり前のように過ごすことができるということがいかに大切であるかを実感しました。

**●学童（二回生 上野碧 & 一回生 杉本梓）** 

学童の活動では紀美野町にある野上小学校の学童保育に参加します。主に屋内で宿題をしたり、なぞなぞや折り紙、工作などを一緒に遊びます。一方屋外では鬼ごっこやボール遊びをします。子どもたちは皆元気いっぱい、大学生の私たちがへへへになってしまうくらいです。そのような遊びの中でも子どもたちに「認知症とはなにか」というプレゼンを行い、クイズやゲームを通して認知症について知ってもらおうという取り組みも行っています。何事にも全力で取り組み、いつも可愛い笑顔で私たちを迎えてくれる子どもたちとの活動はとても充実しています。

**●キノコ食堂（一回生 服部希歌）** 

子ども食堂がリニューアルし、「き」み「の」「こ」ども食堂から名前を取ったキノコ食堂は毎月第2金曜日に紀美野町で開かれ、地域の方から頂いた食材を中心に使った晩御飯を提供しています。私たちは配膳のお手伝いやレクリエーションの企画といった形で参加しています。紀美野町の子どもたちやそのお母さんやお父さん、近所のお年寄りの方などがたくさん集まり、世代間交流の場として、またお母さん同士の情報交換の場として機能していました。高校生のボランティアも多く、お互いに良い刺激となりました。12月に企画したクリスマスツリーづくりでは晩御飯を食べ終わった子どもたちがたくさん参加してくれ、「持って帰れる思い出」として喜んでくれるお母さん方も多く、やりがいを感じました。

キトリ 







# 和歌山県有田市

## 地域で働く人の魅力を子どもたちに伝える



### 【地域の基礎データ】

人口：28,244人（平成31年1月1日現在）

面積：36.91平方キロメートル

高齢化率：30.1%（平成27年1月1日現在）

産業：農業（みかん）、漁業（太刀魚）、工業 など

観光資源：みかん山、箕島漁港、有田みかん海道 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：7名（1回生：3名、2回生：4名）

活動期間：平成29年6月～

担当教員：大井達雄

### 1. 活動実施の経緯

昨年度に引き続き、同様のプログラムを実施した。有田市において、箕島本町商店街を中心とする小売店の減少を契機として大型店を利用しがちな市民が増加し、昔ながらの活気のある街並み姿を消しつつある。一方で、子どもたちに自分の育つまちで働く人の魅力を伝え、ふるさとに誇りと愛着をもってほしいという思いは地域に住まう大人たちの長いでもある、このような地域の状況を踏まえ、地域で働く子どもたちや住民に有田市に対する誇りや愛着を醸成することを主なテーマとしている。

### 2. 活動の内容

本プログラムでは、下記の流れで行った。

#### (1) 「観光についての意見交換会」

有田市における今後の成長戦略として、やはり観光振興の存在については無視することができないということで、紀州有田商工会議所青年部主催で「観光についての意見交換会～若者が訪れる観光地に向けて～」に参加し、意見を述べた。具体的な内容として、これまでに訪れた観光地とその魅力、有田市にあればいいと思うこんな場所、これからの有田市に必要なことなどがあげられる。観光学部生として、これまで大学で学んできた「観光学」の知識を実際に生かせる機会を得た。年齢階層の違い、内部と外部の視点の違い、法律や制度上の課題など、具体的な意見があっても実行が困難であったり、



それぞれ考えの異なるステークホルダーが存在したりすることが明らかになり、とても貴重なディスカッションであった。

## (2) 「観光についての意見交換会」

今回の活動のテーマである「地域で働く人の魅力を子供たちに伝える」を実施するために、地元で料理教室を運営している「さけい料理教室」に依頼し、みかんジャムづくりとそれに伴うワークショップを行った。当日のイベントはキャンセル待ちが出るほど人気で、自分達の活動成果を実感することができた。前半ではワークショップを行い、有田みかんの歴史・みかん農家さんの仕事・おいしいみかんの見分け方などをクイズも織り交ぜながら子供たちと学び、子供たちにとっては当たり前である有田みかんの素晴らしさを改めて知ってもら



うよい機会となった。後半では班に分かれてみかんジャムづくりを行った。子どもたちの感想から、以前のイベントにも参加してくれたこと、一生懸命ワークショップで熱心にメモをとってくれたこと、イベントを楽しんでもらえたことが分かり、子供たちにとって有意義な時間を提供でき、同時に地域の魅力を子供たちに伝えることができたといえる。

第3回筑島っ子集会！  
みかんジャムづくり  
和歌山大学の学生と一緒に有田みかんについて  
楽しく学びませんか？  
有田みかんを使ったジャムづくりも予定しています！  
教えてくれるのはさけい料理教室の講師先生です。  
みんなで一緒においしいジャムを作ろう！

日時：12月16日(日)9時30分～  
場所：さけい料理教室 (電話番号 47-383-9287)  
参加費：1人300円(当日集めます)  
持ち物：上靴、エプロン、三角巾、お手巾  
対象：5年生以下の児童  
募集人数：10名(先着順)  
申込先：有田市社会福祉協議会  
TEL: 88-2750  
(土・日・夜を除く、9時30分～17時15時まで)  
アドレスがある方は、申込み時に教えてください。  
応募締切：11月30日(金)  
備考：5歳未満の児童を募集してはおりませんが、  
保護者の方の参加も歓迎いたします。  
参加費は別途しております。  
主催：和歌山大学筑島地区教育支援センター  
協賛：筑島地区社会福祉協議会

## 3. 活動を通じて

上記以外の活動として、2019年2月に開催された『地域共創フォーラム 2018～他世代で考える有田市の支え合い～』の運営や準備にも従事し、当日はフォーラムの総合司会を担うことになった。本プログラムは2年目であり、有田市において、地域インターンシッププログラムの活動内容が浸透しつつあるといえる。また2年生が1年生に対し、きめ細かい指導を行った。もちろん、活動全般に言えることではあるが、有田市や有田市社会福祉協議会の協力なくしては成立しないことはいうまでもない。

昨年度の報告書にも記載されているが、今後の展開として、今回のイベント運営などを通じて得た知見、経験、そして地域とのつながりを大切にしながら、同地域における多世代交流のさらに推し進めるような活動に取り組んでいくことが期待される。一方で新たな課題も発見されたので、それについては、有田市に対し、フィードバックすることが重要である。このような改善を通じて、さらなる本プログラムの発展することを望む。



## 和歌山県有田郡広川町

### 津木地区寄合会の運営、特産品開発、情報発信、イベントを共に考える



#### 【地域の基礎データ】

人 口：7,053 人（平成 31 年 1 月末現在）

面 積：65.33 平方キロメートル

高齢化率：29.3%（平成 27 年 1 月 1 日現在）

産 業：農林業、漁業、製造業 など

観光資源：稲むらの火の館、ツーギー谷のお花畑 など

#### 【活動の基本情報】

参加学生数：16 名（1 回生：4 名、2 回生：4 名、3 回生：3 名、4 回生：5 名）

活動期間：平成 26 年 6 月～

担当教員：永瀬節治

#### 1. 活動実施の経緯

本 LIP では、平成 26 年度以来、広川町の津木地区寄合会による地域活性化の取り組みを支援する活動を展開している。これまで、寄合会が管理運営を担う「ツーギー谷のお花畑」におけるイベントの企画運営や、地域内外の出店イベントにおける加工品の販売などを、寄合会のメンバーと連携しながら実践してきた。これらの継続的な活動をベースに、広川町津木地区の地域資源のさらなる活用のあり方を検討している。

#### 2. 活動の内容

今年度は、毎年 5 月に実施している津木地区の「ツーギー谷のお花畑」のオープニングイベントは雨天により、また 9 月下旬に計画していた地域での合宿は台風により中止となるなど、悪天候により当初予定していた活動の変更を余儀なくされる場面に何度か見舞われた。そうした中でも、毎週定期的にミーティングを行いながら、活動計画や新たな取り組みの可能性を検討した。さらに広川町ふるさと祭りにおける寄合会の出店ブースの運営支援や、「稲むらの火祭り」の松明行列への参加、紀の川河川敷で実施された市駅“グリーンプロジェクト 2018「シエキノカワでピクニック。」における出店、大学祭での出店など、10 月から 11 月にかけて活発に活動を展開した。

2 月上旬にはぶらくり丁商店街で毎月開催されている「ポポロハスマーケット」に出店し、寄合会の加工品販売と広川町及び津木地区の情報発信を行ったほか、3 月には一度取りやめになった津木地区への合宿を計画しており、今年度の活動成果を寄合会の方々とともに振

り返りながら、地域資源を活用した今後の活動について意見交換を行う予定である。

#### ◎2018年度の主な活動

6月：寄合会メンバーとの意見交換、総会への参加

8月：市駅“グリーングリーン”プロジェクトへの参加準備

※9月に予定されていた市駅GGPは台風により11月に延期

10月：稲むらの火祭りへの参加

11月：広川町ふるさと祭りへの参加

市駅“グリーングリーン”プロジェクトでの出店

大学祭での出店

2月：ポポロハスマーケットでの出店

3月：津木地区での合宿・報告会（予定）

広川町のまち歩きイベントへの参加（予定）

### 3. 活動を通じて

今年度は、広川 LIP として5年目を迎える中で、津木地区の地域資源について再確認するとともに、地域が学生に求めるものは何なのか、LIP としての役割はどうあるべきかを見つめ直す年となった。前述のように活動計画の見直しを迫られる場面もあったものの、日本遺産「百世の安堵」の認定を受けて、稲むらの火祭りへの参加など、広川町全体の地域資源に目を向ける活動も行った。3月の合宿では、津木地区周辺でのフィールドワークを行うとともに、寄合会の方々とともに今年度の活動の振り返りを行い、来年度の活動の発展に向けた意見交換を行う予定である。

### 4. 成果物など

2019年2月のポポロハスマーケットの出店に際し、新たに広川町と津木地区をPRするパネルを作成し、情報発信を行った。



▲市駅 GGP2018 での出店の様子



▲ポポロハスマーケットで掲げた PR パネル

# 和歌山県西牟婁郡上富田町

## 笑顔が広がる美しい里づくり



### 【地域の基礎データ】

人 口：15,600 人（平成 31 年 1 月末現在）

面 積：57.49 平方キロメートル

高齢化率：23.9%（平成 27 年 1 月 1 日現在）

産 業：農業（ウメ・みかん）、製造業 など

観光資源：救馬溪観音、興禅寺（だるま寺） など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：4 名（1 回生：4 名）

活動期間：平成 29 年 5 月～

担当教員：大浦由美

### 1. 活動実施の経緯

市ノ瀬地区は富田川左岸に位置する緩やかな丘陵地で、地区内には上富田町唯一の棚田が存在する風光明媚な地域である。しかしながら農業の担い手は高齢者が多く、耕作放棄地も一部にみられるようになり、今後の農地の維持継承が課題となっている。その一方で、非農家世帯も増加しており、いわゆる「混住化」が進んでいる地域でもある。

当地区では 2016 年秋に地域住民による地域づくりワークショップを実施し、地域の活性化に向けたアイデアを取りまとめる

ことになった。このワークショップに観光学部 2 回生 3 名が参加したことをきっかけに、2017 年から LIP として当地区の地域づくり活動に参加することになった。1 年目は「地域資源を活用した”おどろきと感動”の地域づくり」をテーマに、「ヒマワリと菜の花が咲きほこるまち」「アサギマダラが飛翔するまち」「市ノ瀬ゴマせんべいづくり」の 3 つの活動を支援した。2 年目はこれらの活動を発展させるべく「笑顔が広がる美しい里づくり」をテーマに継続して活動を行った。





## 2. 活動の内容と成果

### (1) ヒマワリと菜の花が咲きほこるまち

今年度は台風や天候不順に見舞われ、ヒマワリ等が十分に生育しなかったため、イベント開催は見送られた。

### (2) アサギマダラが飛翔するまち

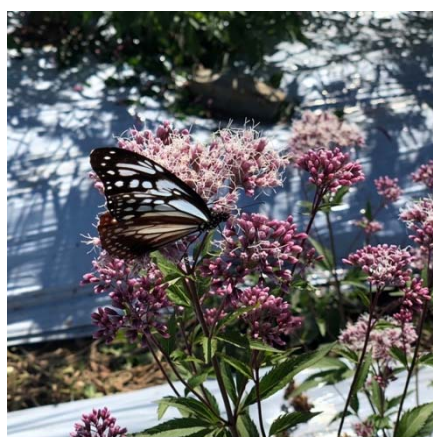
興善寺下の休耕地にフジバカマを地植えしたところ、10月に100頭以上のアサギマダラが飛来した。地元のメディアにも取り上げられたことで、地区外から多くの人が鑑賞に訪れるなど、地域活性化に向けて手応えを得ることができた。

### (3) 市ノ瀬ごませんべいづくり

LIPの活動としては、ゴマせんべいの試作品づくりと試食、ネーミング、パッケージやロゴのデザイン、PR用ポスターの作成などを手がけた。試作品は地区の祭りで販売された。

### (4) 市ノ瀬地区の農業に関する住民意識調査

市ノ瀬地区全世帯（576世帯）を対象に、農業や地域活動、農家非農家間交流に対する住民調査を実施した。回収率は2割程度に留まったが、農家・非農家が共通して農村景観に魅力を感じており、非農家でも農地保全や交流に前向きであることから、当地における交流を通じた農地保全活動の展開可能性を示すことができた。



## 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

地域の文化や風習、そこで暮らす人々と直にふれあいながら、これからの地域・自分・社会のあり方・つながり方を考える



### 【地域の基礎データ】

人 口：15,202 人（平成 31 年 2 月 1 日現在）

面 積：183.31 平方キロメートル

高齢化率：37.8%（平成 27 年 1 月 1 日現在）

産 業：林業、水産業、観光業 など

観光資源：熊野那智大社、那智の滝、熊野参詣道 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：10 名（1 回生：6 名、2 回生：1 名、3 回生：3 名）

活 動 期 間：平成 28 年 6 月～

担 当 教 員：八島雄士、岸上光克（食農総合研究所）

### 1. 活動実施の経緯

LIP 那智勝浦は、2016 年度から活動を始めました（現地指導は米川智史さん）。1 年目は、5 名参加で試行錯誤するなか現地住民の方々との交流をするところから始めました。2 年目は、1 年目から継続して参加した学生が 3 名いたこともあり活動内容を増やすことができました（全員で 5 名参加）。特に、毎年 10 月 1 日に実施される宮祭りおよびその準備活動にほぼ全員が参加することができました。2018 年度は 3 名（うち 2 名は 3 年連続参加）が前年度から継続して参加しました。また、新たに 3 回生 1 名、1 回生 6 名を迎え、これまでの活動の課題を全員で共有し、活動がスタートしました。基本的には、それぞれにスケジュールを決め、米川さんと連絡を取り合いながら現地活動を行いました。また、昨年度に引き続き、顔合わせ、宮祭り、反省会は、原則として全員参加で行いました。

### 2. 活動の内容

- ①学内会議：参加者の顔合わせとこれまでの活動の経緯を共有したのちに、初年度からお世話になっている米川さんを交え現地の情報共有を行いました。
- ②学内報告会：各自が現地で活動した内容を共有し、また活動のまとめとして報告会を 3 回ほど行いました。
- ③学内作業：サポートオフィスからの依頼で活動を紹介するパネルを作成しました。また、基礎知識として現地の基本情報を収集し、メンバーで共有しました。

#### ④現地での全体活動

- (1) 顔合わせ：現地での顔合わせを7月に実施しました。顔合わせ前日に行われた那智の火祭りの見学では多くの外国人や観光客が目にとまり、地域の祭りに留まらない賑わいを感じました。次の日の顔合わせ会では地域の方々が郷土料理を作ってください、そのお手伝いをして交流を深めました。朝は少し硬かった雰囲気も、食事をしながら会話をするうちに和んでいき、各自興味のあることや地域の方々の考えなど、様々な意見交換をすることが出来ました。その次の日、残った学生と地域の有志の方とで前日の顔合わせで話題に上がった鉱山跡の見学に赴きました。昔は小学校への通学路としても使っていたという山道はかなり荒れており、地元の方のサポートが無ければ進めないほどでした。その道中、病院や映画館があった場所や社跡などを見学しましたが、跡形もなくなっている箇所もあり、50年ほどで町が森に戻ってしまうということに驚きました。
- (2) 宮祭り：宮祭り前から現地に入り、棚田の脱穀作業や豪雨災害箇所の見学を行いました。10月1日に予定されていた宮祭りは台風のため中止となり、全員帰宅となりました。
- (3) 現地反省会：現地の方を交えて年間の活動の反省会を年明けに実施しました。各自が活動を振り返り、今後の課題を発表しました。

#### ⑤現地での個別活動

- (1) 防災計画：1回生の藤本多敬君が中心となり実施しました。区長の方との意見交換や災害箇所の見学を行いました。
- (2) 獣害対策：3回生の銭谷健君が中心となり実施しました。狩猟免許を取得し、地元の猟師の方と罠の仕掛け方や獣害について交流しました。
- (3) 地域の文化：地域文化の聞き取りや古い倉庫の道具などを見学を実施しました。
- (4) その他：各自が地域行事への参加や住民の方との交流を行いました。

### 3. 活動を通じて

今年度は3年目になり、各自が目的を持って現地で活動を行うことが出来ました。宮祭りが台風で中止となり全員が同時に現地で活動を行う機会は少なかったですが、現地に何度も赴き住民と話し合いの機会を持てたこと、自身の研究テーマを見据えて現地で活動できたこと、皆の活動をわかりやすくまとめたことなど、各自がそれぞれの役割を持って年間を通じて活動できました。昨年度と比較して、活動の内容が豊富になり、かつ、現地の方やメンバー間でのコミュニケーションも活発にできたので、行動力が向上したように思います。また、今年度の活動やこれまでの内容を踏まえて、今後、色川と学生との交流がますます増え、LIP活動が地域の方の助けとなればと思います。（リーダー：3回生・相良駿）

### 4. 成果物など

自己紹介プリントおよびスライド、活動のパネル、振り返り報告のスライドなど

## 和歌山県全域

### 「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」 大会参加者に対する観光ツアーの開発

---



#### 【地域の基礎データ】

人 口：932,030 人（平成 31 年 1 月 1 日現在）

面 積：4724.63 平方キロメートル

高齢化率：29.5%（平成 27 年 1 月 1 日現在）

産 業：農林業、漁業、製造業 など

観光資源：熊野古道、高野山、温泉 など

#### 【活動の基本情報】

参加学生数：9 名（1 回生：1 名、2 回生：8 名）

活動期間：平成 30 年 5 月～

担当教員：伊藤央二

---

#### 1. 活動実施の経緯

平成 31 年 11 月 9 日～12 日に、和歌山県では 60 歳以上の方々を中心となってスポーツや文化などのイベントで交流を深める「ねんりんピック紀の国わかやま」が開催される。和歌山県で全国規模のスポーツイベントが開催されるということで、主催団体の和歌山県福祉保健部福祉保健政策局ねんりんピック推進課と協力し、大会参加者に提供する観光ツアーを開発するという趣旨の基、本 LIP は始まった。本 LIP の研修テーマは「「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」大会参加者に対する観光ツアーの開発」と設定した。

#### 2. 活動の内容

JTB 西日本担当者と和歌山県ねんりんピック推進課の職員の方にねんりんピックや観光ツアー開発に関する講義を数回にわたり行っていただいた。参加学生を 3 班（紀北、紀中、紀南）に分け、それぞれのエリアで日帰りツアー 4 件、宿泊ツアー 1 件の開発を行った。夏休み中には、JTB 西日本担当者と和歌山県ねんりんピック推進課の職員の方と開発ツアーの目的地の視察を実施した。その後、開発したツアーへのフィードバックを JTB 西日本担当者と和歌山県ねんりんピック推進課および観光課の職員からいただき、最終的に各班が日帰りツアー 2 件、宿泊ツアー 1 件のツアー企画を開発し、内容の発表を行った。

#### 3. 活動を通じて

JTB 西日本担当者や和歌山県職員といった観光やスポーツイベントの最前線でご活躍される方々からフィードバックをいただけたことで、参加学生の今後の学習意欲が高まった。



#### 4. 成果物など

日帰りプラン	和歌山市の歴史を辿ろう	JR和歌山駅発着																	
和歌山駅10：00発⇒和歌山城10：20着－12：00発⇒海鮮料理旬海12：30着－13：30発⇒紀州東照宮13：40着－14：30発⇒養翠園14：40着－15：30発⇒紀三井寺15：45着－16：30発⇒和歌山駅17：00着																			
<div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; color: green;">プランのみどころ</div>																			
<p>国重要文化財に注目し、和歌山市の歴史を学んでもらえるようなプランです。            和歌山城から眺めた市内は各方異なる風景が広がります。昼食は、旬海にてその日とれたての魚料理・旬彩御膳を堪能することができます。            また、養翠園や紀三井寺にて施設の方からのガイドもあり、ゆっくり見て回ることが出来ます。            紀州東照宮などでは階段が急なため、身体に自身のある人にこのプランをおすすめします。</p>																			
<table border="1"> <tr><td>出発日</td><td>11月11日(月)・11月12日(火)</td></tr> <tr><td>出発時間</td><td>和歌山駅 10：00発</td></tr> <tr><td>到着時間</td><td>和歌山駅 17：00着</td></tr> <tr><td>募集人員</td><td>40人</td></tr> <tr><td>最少催行人員</td><td>25人</td></tr> <tr><td>食事</td><td>昼1回</td></tr> <tr><td>旅行代金</td><td>6,000円</td></tr> <tr><td>添乗員</td><td>※学生ガイド検討</td></tr> <tr><td>旅行代金に含まれるもの</td><td>昼食代、バス代、入場料</td></tr> </table>	出発日	11月11日(月)・11月12日(火)	出発時間	和歌山駅 10：00発	到着時間	和歌山駅 17：00着	募集人員	40人	最少催行人員	25人	食事	昼1回	旅行代金	6,000円	添乗員	※学生ガイド検討	旅行代金に含まれるもの	昼食代、バス代、入場料	 <p>和歌山城</p>  <p>旬彩御膳(旬海にて)</p>
出発日	11月11日(月)・11月12日(火)																		
出発時間	和歌山駅 10：00発																		
到着時間	和歌山駅 17：00着																		
募集人員	40人																		
最少催行人員	25人																		
食事	昼1回																		
旅行代金	6,000円																		
添乗員	※学生ガイド検討																		
旅行代金に含まれるもの	昼食代、バス代、入場料																		

開発した日帰りプラン(紀北班)

1泊2日プラン	ねんりんピックの後は熊野古道を歩こう!	紀伊田辺駅・白浜駅 発着																	
1日目紀伊田辺駅9:00⇒乗約15分⇒白浜駅9:30⇒乗約90分 ⇒勝浦にぎわい市場(各自昼食) 13:00～まぐろ缶詰体験(約3時間)乗約5分⇒ホテル浦島 2日目 7:00～まぐろ体験CAN:まぐろ入札見学(自由参加) 10:00ホテル出発⇒乗約20分⇒大門坂駐車場⇒乗約60分 ⇒那智大滝・お食事処かいはみ⇒那智大滝朝光バス駐車場⇒乗約15分⇒那智大社⇒乗約120分⇒白浜駅⇒乗約15分⇒紀伊田辺駅																			
<div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; color: green;">プランのみどころ</div>																			
<p>.....最終種目として世界遺産「熊野古道」を歩きましょう!.....</p> <p>和歌山県でも屈指の観光地域である紀南エリアをご案内します。1日目は車窓から串本の橋杭岩や那智勝浦でまぐろの缶詰体験をしていただきます。            そして今回宿泊する「ホテル浦島」へは一風変わった送迎船がお出迎えいたします。こちらの洞窟温泉で疲れを癒しましょう。            2日目は2004年にユネスコ世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成の一部にもなっている熊野古道を歩いていただきます!            熊野那智大社までのおよそ約1時間の道のりで神も仏も受け入れてきた共生の文化、人と自然が作り上げてきた、平和の文化を感じ取っていただきます。</p>																			
<table border="1"> <tr><td>出発日</td><td>2019年11月11日(月)</td></tr> <tr><td>出発時間</td><td>9:00紀伊田辺駅 9:30白浜駅</td></tr> <tr><td>到着時間</td><td>16:00白浜駅 16:30紀伊田辺駅</td></tr> <tr><td>募集人員</td><td>25名</td></tr> <tr><td>最少催行人員</td><td>15名</td></tr> <tr><td>食事</td><td>朝1回・夜1回</td></tr> <tr><td>旅行代金</td><td>13,500円+ホテル代</td></tr> <tr><td>添乗員</td><td>全日程同行</td></tr> <tr><td>旅行代金に含まれるもの</td><td>バス代・バス駐車場代・ガイド代・まぐろ体験CAN利用料金</td></tr> </table>	出発日	2019年11月11日(月)	出発時間	9:00紀伊田辺駅 9:30白浜駅	到着時間	16:00白浜駅 16:30紀伊田辺駅	募集人員	25名	最少催行人員	15名	食事	朝1回・夜1回	旅行代金	13,500円+ホテル代	添乗員	全日程同行	旅行代金に含まれるもの	バス代・バス駐車場代・ガイド代・まぐろ体験CAN利用料金	 <p>熊野古道</p>
出発日	2019年11月11日(月)																		
出発時間	9:00紀伊田辺駅 9:30白浜駅																		
到着時間	16:00白浜駅 16:30紀伊田辺駅																		
募集人員	25名																		
最少催行人員	15名																		
食事	朝1回・夜1回																		
旅行代金	13,500円+ホテル代																		
添乗員	全日程同行																		
旅行代金に含まれるもの	バス代・バス駐車場代・ガイド代・まぐろ体験CAN利用料金																		

開発した宿泊プラン(紀南班)

# 大阪府阪南市

## 地方創生にかかる地場産物商品に関する調査・研究、デザイン考案等



### 【地域の基礎データ】

人 口：54,469 人（平成 31 年 1 月末現在）

面 積：36.17 平方キロメートル

高齢化率：28.7%（平成 27 年 1 月 1 日現在）

産 業：紡績業、漁業 など

観光資源：山中溪、鳥取池緑地、せんなん里海公園 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：14 名（1 回生：10 名、2 回生：4 名）

活 動 期 間：平成 30 年 6 月～

担 当 教 員：佐々木壮太郎

### 1. 活動実施の経緯

阪南市が推進する「めっさ旨い！阪南うまいもんプロジェクト」および「次世代へつなげ、夢の懸け橋プロジェクト」との連携により、地場産物を用いた新商品・パッケージデザイン・PR 手法の提案を目指したプログラムである。

### 2. 活動の内容

#### ①阪南市の特産品・地場産品についての現状把握

現在、阪南市において特産品や地場産品として認識されているのは、泉ダコ、なす、黒毛和牛（なにわ黒牛）、地酒、海産物、野菜、おかき、クッキー等である。これらの生産事業者を訪問し、実際に商品や生産現場に接することでその内容を深く知り、また事業者との意見交換等を実施する予定を設けていた。しかし、度重なる台風の接近により現地訪問の予定はすべてキャンセルとなった。その代替として、阪南市役所に提供していただいた実際の商品および各種パンフレットによって、阪南市が保有するシーズについての現状把握を行なった。

#### ②商品アイデアの創出

学生が各自で商品アイデアを持ち寄り、合計 100 個を目標として商品アイデアの創出に取り組んだ。生みだされたアイデアは学生同士の議論および阪南市役所との意見交換により、50、30 と絞り込まれ、最終的に 10 個の商品案までたどり着いた。

### ③イベント参加およびアンケートの実施

はんなん産業フェア（11月4日：阪南市役所周辺）および星空スタンド（11月17・18日：なんばカーニバルモール）に参加し、商品提案およびプロジェクトに関するアンケート調査を実施した。はんなん産業フェアでは110名、星空スタンドでは34名（こちらはプロジェクトの都合から調査対象者を外国人に限定）から回答を得た。

### ④プロジェクトのウェブサイト作成協力

めっさ旨い！阪南うまいもんプロジェクトで取りあげた飲食店を訪問し、クチコミ情報となる食レポを実施した。これらはプロジェクトのウェブサイトに掲載されている。

### ⑤新商品提案のプレゼンテーション

最終発表会として、阪南市商工会において特産品・地場産品の事業者を含む商工会会員に向けた新商品提案のプレゼンテーションを実施した。アンケート等をとおしてブラッシュアップされた9つの商品案についてイラスト等を交えて説明し、出席者からの率直な意見・感想を伺った。厳しい意見や励ましとともに商品化のヒントを得られたという感想もあり、学生にとっては貴重な機会となった。

## 3. 活動を通じて

2018年夏は数多くの台風が関西地方を通過し、多くの被害をもたらした。阪南市もその例外ではなく、LIPの活動に対し、大きな制約をもたらすことになった。本来であれば、事業者との関係を構築した上での商品提案を行なえるはずであったが、現実には、最終発表会でぶっつけ本番のような形で事業者と向きあうことになってしまった。ただこれも、現場では常に起こりうる事態ではあり、学生にとってもひとつの重要な経験となったことであろう。また、イベントでのアンケート実施にあたっては、阪南市役所の担当者も驚くようなコミュニケーション能力を発揮し、予定を上回る回答者数を獲得するなど、学生が持つポテンシャルを発揮できる機会となったようである。

## 4. 成果物など

「めっさ旨い！阪南うまいもんプロジェクト」ウェブページ(<http://hannan-umaimon.jp/>)



# 和歌山県有田郡有田川町

## 学生との協働による継続的な棚田保全活動体制の構築



### 【地域の基礎データ】

人 口：26,590 人（平成 30 年 12 月末現在）

面 積：351.84 平方キロメートル

高齢化率：30.3%（平成 27 年 1 月 1 日現在）

産 業：農業（みかん、山椒、花き）、林業 など

観光資源：あらぎ島、生石高原、温泉 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：34 名（1 回生：10 名、2 回生：14 名、3 回生：6 名、4 回生：4 名）

活動期間：平成 23 年 7 月～

担当教員：大浦由美

### 1. 活動実施の経緯

有田川町での第 19 回全国棚田（千枚田）サミット（2013 年度）開催決定をきっかけに、2010 年に県が企画した「棚田モニターツアー」に学生約 20 名が参加。地域の農業者の高齢化とともに耕作放棄地が増加する当地の現状を目の当たりにして、学生側から「棚田保全ボランティア」のアイデアが出される。

和歌山県と有田川町からの提案で、学内で棚田保全ボランティアへの参加者を募り、「棚田ふぁむ」を結成。2011 年 7 月から活動を開始した。



### 2. 活動の内容

- ・ 農作物の生産：コメ，サトイモ，大根，カボチャ，ゴボウなど
- ・ 農作業支援：サンショ収穫作業の支援，茶摘み・製茶作業の手伝い，草むしり
- ・ 地域活動支援：祭礼への参加，餅つき手伝い，溝普請（水路清掃），獣害防止柵の見回り
- ・ その他：地区産品用ラベルの作成，活動広報誌の作成・配付，大学祭への出店（棚田米を使った焼きおにぎりや番茶を販売して沼地区を PR）





5/19 田植え



7/14-16 サンショ収穫



9/28 稲刈り



10/24 白山神社秋祭り



11/24 大学祭



12/8 交流会

### 3. 活動を通じて

#### (1) 継続的な地域支援活動への発展

本活動は今年で8年目となる。交流会等には毎年卒業生の参加もみられ、幅広い世代が行き交う場となっている。県庁農業農村整備課や有田振興局、有田川町役場から多大な支援を受けているものの、年間計画の作成や活動毎の連絡調整などについては、県庁・行政担当者や地元農家と直接連絡を取りながら、学生主体で行っている。

#### (2) 地域行事への貢献

2012年から白山神社秋祭り等、地区の祭礼に参加している。若者不足で途絶えていた「餅担ぎ」を約50年ぶりに復活し、地区に賑わいを添えている。

#### (3) 活動広報誌の作成・配付を通じた理解の醸成

2013年より活動広報誌「ふぁむからあのね」を毎回の活動毎に作成し、沼地区の全世帯に配付している。現在では地区内での活動の認知度も向上し、普段活動に参加していない住民にも好評である。

#### (4) 今後の課題

今後は、棚田保全活動やサンショ収穫などの農作業支援に加え、地域の共同活動等の支援にも取り組みたい。そのために、地区の現状や必要な支援についての調査活動を実施する予定である。

# 和歌山県日高郡日高川町および伊都郡かつらぎ町

## 「体験教育旅行&夏学習～都会と大自然の出会い」



### 【地域の基礎データ】

人口：	9,938 人（日高川町/平成 31 年 1 月末現在） 16,926 人（かつらぎ町/平成 31 年 1 月末現在）
面積：	331.59 平方キロメートル（日高川町） 151.69 平方キロメートル（かつらぎ町）
高齢化率：	32.7%（日高川町/平成 27 年 1 月 1 日現在） 35.2%（かつらぎ町/平成 27 年 1 月 1 日現在）
産業：	農業、林業 など（日高川町） 農業、製造業 など（かつらぎ町）
観光資源：	道成寺、ヤッホーポイント など（日高川町） 丹生都比売神社、串柿の里 など（かつらぎ町）

### 【活動の基本情報】

参加学生数：	13 名（1 回生：8 名、2 回生：4 名、3 回生：1 名）
活動期間：	平成 29 年 5 月～
担当教員：	東悦子、中串孝志

### 1. 活動実施の経緯

本プログラムは 2 件のプログラムで構成された。一つは、和歌山県日高郡日高川町と大阪府泉大津市との友好都市連携に基づいた小学生の相互交流事業を土台と泉大津市ならびに日高川町在住の小学生を対象とした日高川町における 2 泊 3 日の体験教育旅行であった。もう一つは、和歌山県伊都郡かつらぎ町と大阪府和泉市との友好都市親善交流会を母体としたに 1 泊 2 日のサマースクールであった。後者のプログラムに関しては、事前準備を重ねていたものの、台風のために残念ながら中止となった。

以上のように本プログラムは、日高川町、泉大津市、かつらぎ町、和泉市、和歌山大学の連携事業であるとともに、大学内においては観光学部と教育学部の連携事業でもあった。また「体験教育旅行&夏学習」の主たる目的は、そこに参加する子ども達、つまり大規模校と小規模校の児童達の出会いと交流の創出であった。そして、子ども達を中心として、彼らを取り巻く大学生が指導や支援にあたり、さらに町、市、大学の教職員がその活動を見守り、適宜助言や支援を行った。

## 2. 活動の内容

和歌山大学観光学部と教育学部に所属する学生達が、それぞれの特性を生かしつつ協働することにより、屋内における子ども達のためのアクティビティおよび野外活動の企画・準備を行った。「体験教育旅行&夏学習」の当日は、両学部生が中心となり、子ども達の活動を支援し、アクティビティを運営した。

1. 事前研修 5月10日（木）開始（ほぼ毎週木曜日昼休み）
  - ・教育学部学生との顔合わせ
  - ・研修内容およびタイムスケジュールの確認
  - ・アクティビティの企画・準備
  - ・テレビ会議
  - ・現地視察
2. 日高川町サマーキャンプ 8月19日（日）～21日8日（火）  
※中串教員が引率
3. かつらぎ町サマーキャンプ 8月23日（木）～24日（金）  
※東が引率予定であったが、台風接近のため中止
4. 日高川町における農業体験&環境学習 10月20日（土）
5. 事後研修 10月～1月30日（水）まで5回
  - ・事後報告書の作成を通して、各自が研修内容を振り返る。
  - ・今回のLIPの改善点について討議する。

## 3. 活動を通じて

事後研修から次のような学生の状況が把握できた。小学生と活動する経験の少ない観光学部生にとって、児童との交流は楽しく良い経験であったと同時に、落ち着きのない児童などへの対応に困惑する状況も生じたようだ。またアクティビティを実施し、入念に準備したつもりが、実際は準備が不十分であった点に気づくこともあった。このような経験から事前準備の重要性を認識するにいたった。さらに、今回のプログラムは教育学部生との連携を図る必要があったが、学部の特性を活かして連携する難しさも感じたようである。総じて、さまざまな学びを得た様子が見えられた。

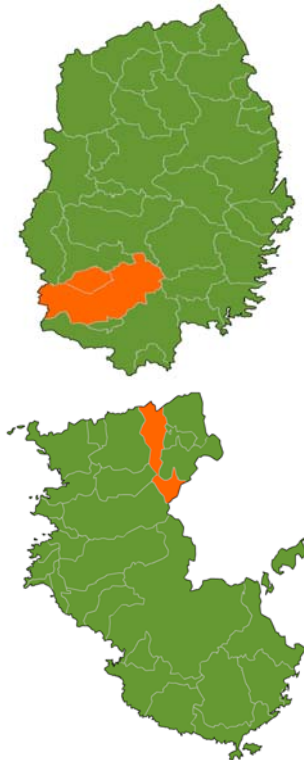
改善すべき点はあったものの、3日間を参加した子ども達が楽しく交流し、笑顔で帰途についたことが、当プログラムの成果をあらわしていたといえる。大学生が最後まで活動をしきり、それぞれの今後につながる経験となった。

## 4. 成果物など

事後研修を通して、学生達が自ら今回の活動を振り返り、評価すべき点や今後の改善点を指摘した。今回の振り返りを次回のプログラムに活かしてくれることを期待する。

# 岩手県胆江地方および和歌山県

## 農村ワーキングホリデーを活用した都市農村交流の「鏡効果」と農村再生手法としての可能性の検証



### 【地域の基礎データ】

人口：	約 14 万人（胆江地方） 16,926 人（かつらぎ町/平成 31 年 1 月末現在）
面積：	1173.06 平方キロメートル（胆江地方） 151.69 平方キロメートル（かつらぎ町）
高齢化率：	31.9%（胆江地方/平成 27 年 1 月 1 日現在） 35.2%（かつらぎ町/平成 27 年 1 月 1 日現在）
産業：	農業（稲作、畜産） など（胆江地方） 農業、製造業 など（かつらぎ町）
観光資源：	えさし藤原の郷、温泉 など（胆江地方） 丹生都比売神社、串柿の里 など（かつらぎ町）

### 【活動の基本情報】

参加学生数：	32 名（1 回生：8 名、2 回生：10 名、3 回生：10 名、4 回生：4 名）
活動期間：	平成 26 年 6 月～
担当教員：	藤田武弘

### 1. 活動実施の経緯

戦後高度経済成長の過程で、農村では若年労働力が都市に流出する「人」の空洞化と併せて条件不利な農林地が荒廃化するなど「土地」の空洞化も拡がった。その後、都市と農村との格差は一段と拡がり、農村での相互扶助的な集落機能（「むら」）の空洞化も進んだ。さらに、経済効率や合理性のみを追求する考え方が横行したことで、農業で生計を立てることに對する農家の「誇り」も奪い去られた。しかし、近年になって、安全・安心な食やその土台をなす国内の農業・農村に関心を寄せる都市住民が増え始めている。

「農村ワーキングホリデー」は、農業や農村に関心をもつ都市住民が、繁忙期の農作業を無償で手伝う代わりに農家から寝食の提供を受けるというもので、参加者と農家との深い交流を特徴とする“日本型グリーン・ツーリズム”のなかでも、最も「鏡効果（他者との交流を通じてみた日常生活に潜む価値への気づき等）」の高い取り組みである。学生を参加者とする域学連携型の農村ワーキングホリデーは、次世代の若者たちが、農業・農村が直面する地域課題を当事者意識をもって理解する機会を提供するとともに、多世代間の交流による



「鏡効果」により地域のコミュニティが活性化するなどの変化が期待されている。

## 2. 活動の内容

岩手プログラムでは、①「農村ワーキングホリデー実施」(9月中旬3泊4日型と4泊5日型に分けて実施、学生32名参加/岩手県立大学ほか他大学学生14名と合同で実施)、②「岩手県農家の和歌山研修受入」(翌年1月下旬1泊2日、受入農家12名が大学を訪問し参加学生と交流)、③「振り返りセミナー開催」(3月に現地開催、教員と学生・卒業生が参加予定)のサイクルでの取り組みが定着している。

和歌山プログラムは台風被害と重なり限定的な実施となったが、①「観光ぶどう農園ジベレリン処理・摘粒作業(6月上旬)」(農家民泊型かつらぎ町、学生12名参加)、②「道普請参加(日帰り)」(12月初旬かつらぎ町、学生4名参加)が実施済。

## 3. 活動を通じて

各地でのプログラム毎に、①受入農家・参加学生を対象とした事前学習会の開催、②受入農家・参加学生のプロフィールシート作成、③実施中の業務報告と実施後のワークショップ開催、④参加学生のリアクションペーパーと受入農家の評価シートを編集した「記録集」を作成(各取組毎に作成)。これにより、地域(受入農家や地元行政)が取り組みの経験を暗黙知に留まらせることなく“可視化”し、持続的な取り組みに発展させることが可能となる。

## 4. 成果物など

これまでの実践をもとに「農村ワーキングホリデーへのいざない(改訂版)」を編集・発行し、プログラムの普及・啓発に大きく貢献した。



# 地域に観光を学ぶ

## Local Studies



### Local Internship Program (LIP)

地域が抱える課題を住民とともに発見し、その解決方法を考える。



和歌山大学観光学部では、和歌山県内及び大阪南部の市町村の協力のもと、地域が抱える課題を学生が調査する「地域インターンシッププログラム」(通称:LIP)を実施しています。

LIPは、地域活性化に関心をもつ学生が、現地に足を運び、地域の人びとと連携することによって地域の課題や調査活動に取り組むプログラムです。「学生と地域を活性化したい」、「地域の魅力を発見したい」といった各地域からの提案を受け、毎年複数のプログラムを行っています。

LIPに参加する学生は、学内の事前学習や現地視察を通して地域の実情を学びます。さらには現地調査や地域住民との交流、イベントの企画運営などを通じて、それぞれの地域の真の魅力や課題と向き合います。具体的なプログラムとしては、観光施設の視察や就業体験、施設の職員や利用者への聞き取り調査、宿泊施設や農家民泊のモニター、集客イベントの企画運営、観光資源調査やマップ作成などに取り組んできました。

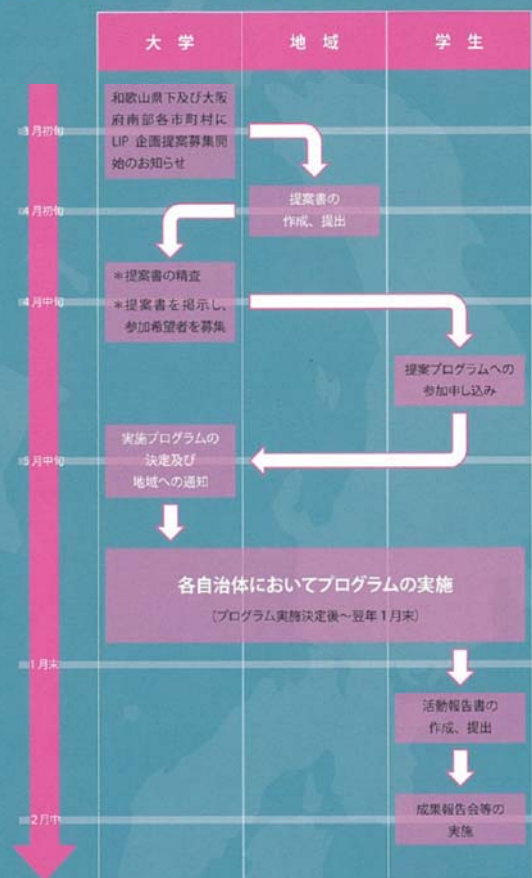
「この地域にはどのような観光資源があるのか」「埋れている観光資源はないか」「観光資源が有効に活用されているのか」「どうすれば地域が元気になるのか」。こうした課題に対して、地域は生活者の視点から、学生は「ヨソ者」の視点から意見を出し合い、そして活動をともにします。このプロセスが、互いに新たな気づきをもたらします。

LIPは、こうした相互作用を通じて、地域は「ヨソ者」の力を活かしながら、より自立的なまちづくり活動を行う力を、そして学生は、地域の人々の思いを理解しつつ、地域活性化の方法を提案できる力を養い、地域を支える人材として活躍することを目指しています。



来場者参加型企画を実施し、地域のイベントを盛り上げました(広川町)

#### ●地域インターンシップ実施の流れ



※地域で一定時間以上活動した場合、「地域観光実習」の単位が認定されます。(30時間ごとに1単位、最大で8単位まで)

#### ●実施プログラムの決定について

●各地域より提案いただいたプログラムは、LIPの趣旨に沿った内容であるか、単位認定に必要な要件を満たしているかについて精査したうえで、学生の参加希望を募ります。

●参加希望者が最少催行人数に達したプログラムについて、LIP学内予算を勘案し、実施プログラムを決定します。詳細は、観光実践教育サポートオフィスまでお問い合わせください。



# 地域に観光を学ぶ Local Studies Local Internship Program (LIP)



## ●地域インターンシップのこれまで

### 年次ごとの実施プログラム数

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	合計
件数	6	8	3	4	11	5	10	15	21	19	102

年次ごとに実施プログラム数は異なりますが、毎年、幅広い分野のプログラムが実施され、各地域で学生たちが地域の方々と一緒に活動しています。

### 年次ごとの参加学生数

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	合計
参加人数	42	46	18	24	80	73	137	191	227	216	1055
実人数	33	45	17	23	68	69	121	169	196	190	932

毎年多くの学生が自主的にプログラムに参加し、合計参加学生数は延べ人数で1000名を超えました。

### これまでの実施プログラム (一部抜粋)

市町村名	内容
和歌山市	和歌山公園動物園の環境エンリッチメントを通じた観光活用
岩出市	観光地の活性化と情報発信
紀の川市	紀の川市地域活性化
かつらぎ町	かつらぎ町日帰りプランの作成
紀美野町	地区×学生による継続可能な地域活性化にむけた寄り添い型支援体制の構築と観光・交流情報発信
有田市	地元小学生が見つけた地域の資源に対する傾向・特性調査とその活用提案
広川町	津水地区寄合会の運営、特産品開発、情報発信、イベントを共に考える
有田川町	学生との協働による棚田保全活動体制の構築に関する基礎調査
日高川町	日高川町における祭事を中心とした伝統文化と地域活性化についての調査
由良町	観光地の新たな魅力発見
みなべ町	みなべ町の新たな魅力発信・発信事業
田辺市	農山村ワーキングホリデーのシステム構築
串本町	マグロ料理で観光PR
那智勝浦町	地域の文化や風習、そこで暮らす人々と共にふれあひながら、これからの地域・自分・社会のあり方・つながり方を考える
大阪府熊取町	第6回熊取ふれあひ農業祭



小学生を対象に認知症サポーター養成講座を実施しました。(紀美野町)

## ●地域インターンシップ活動報告

### 和歌山市

和歌山城にある動物園の観光視点での再生のため、聞き取り調査を行い、園舎や看板の施設整備や清掃活動を行いました。



### 紀美野町

廃校となった小学校の地域拠点化を目指した活動に取り組みました。活動4年目となった今年度は、学生主催イベントを開催し、たくさんの地元の小学生たちと交流を深めました。



### 有田市

商店街の古民家を改修してつくられた地域拠点において、小中高大学生と大人たちの交流を促進するような活動に取り組みました。



## ●参加者の声

2年目となる今回の日高町LIPに引き続き参加して感じたことは自分達が考えていたものが次々と形になっていくのを間近で体験できたことなのだと思います。1年目は祭りの為構想を練るだけでしたが、2年目は構想から実際に形作って行くのを体験し、更に日高町について理解を深めていくことができました。参加して良かったと思います。(日高町LIP参加者)

広川町LIPに4年間携わってきました。4年間の活動を通じて、学生と地域の方々が、立場や視点の違いを超えて、地域に対する同じ気持ちを持つことで、地域の明るい未来へ共に進んでいくことができると知ることができました。大学を卒業後も、大学の活動とは関係なく、大好きな広川町の地域の方々との繋がりを大切にしたいと思います。(広川町LIP参加者)

学生との協働による地域活性化プログラムをご検討であれば、ぜひ一度、ご相談ください。

#### 【問い合わせ先】

和歌山大学観光学部 観光実践教育サポートオフィス  
電話/Fax: 073-457-8553 E-mail: tourism-er@wakayama-u.ac.jp  
URL: <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>

## 地域インターンシッププログラム（LIP）の沿革

### ■2008～10 年度（平成 20～22 年度）

地域インターンシッププログラム（通称 LIP ※2012 年度に改称）は、2008 年観光学部の設置とともにスタート。観光学部より和歌山県下の自治体への協力要請を行い、各教員が担当する自治体との協議を重ね、早いプログラムでは 2008 年度中に、遅いものでも 2009 年度中にはプログラムの実施に至った。

- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：

6 件／42 名（2008）、8 件／46 名（2009）、3 件／18 名（2010）

### ■2011 年度（平成 23 年度）

- ・地域連携担当の配置
- ・地域インターンシップ実施要項の整備
  - ◇地域（自治体）からプログラム内容について提案を受け付ける「地域提案型」と教員の地域との共同研究をベースとした「申請型」の 2 つのプログラムを設定。
  - ◇主要な活動対象エリアを、和歌山県内に加えて大阪南部の自治体（岬町、阪南市、泉南市、田尻町、泉佐野市、熊取町、貝塚市、岸和田市）にまで拡大。
- ・地域提案募集：5 月に送付
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：4 件／24 名

### ■2012 年度（平成 24 年度）

- ・名称変更：RIP から LIP へ改称
- ・実施要項の改訂
  - ◇申請型については、主たる活動エリアを和歌山県内と大阪南部以外でも可とした。
- ・地域提案募集：5 月に送付
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：11 件／80 名

### ■2013 年度（平成 25 年度）

- ・地域連携の所管が観光教育研究センター（現：観光実践教育サポートオフィス）となり、担当者を配置。
- ・LIP の制度改善を図るため、活動実績のある自治体の担当者にヒアリング調査を実施。
- ・LIP の認知度や参加意識を明らかにするため、学生対象のアンケート調査を実施。
- ・地域提案型プログラムの質向上のため、活動実績のある自治体や和歌山市周辺の自治体を廻り、LIP の評価の聞き取りや新制度についての周知活動を実施。
- ・地域提案募集：4 月に送付
- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：5 件／73 名



#### ■2014 年度（平成 26 年度）

- ・ LIP 周知活動の一環として、2014 年度活動の報告書を作成（以後継続して作成）。
- ・ 地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・ 実施状況／参加学生数（延べ人数）：10 件／139 名

#### ■2015 年度（平成 27 年度）

- ・ LIP 周知活動の一環として、2015 年度活動の報告書を作成。なお、報告書には、2008～2015 年度までの LIP に関するデータを所収（以後継続して所収）。
- ・ 地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・ 実施状況／参加学生数（延べ人数）：15 件／191 名

#### ■2016 年度（平成 28 年度）

- ・ LIP 周知活動の一環として、2016 年度活動の報告書を作成。
- ・ LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施（以後継続して実施）。
- ・ 地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・ 実施状況／参加学生数（延べ人数）：21 件／227 名

#### ■2017 年度（平成 29 年度）

- ・ LIP 周知活動の一環として、2017 年度活動の報告書を作成。
- ・ LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・ 地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・ 実施状況／参加学生数（延べ人数）：19 件／217 名

#### ■2018 年度（平成 30 年度）

- ・ LIP 周知活動の一環として、2018 年度活動の報告書を作成。
- ・ LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・ 地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・ 実施状況／参加学生数（延べ人数）：13 件／190 名

2018 地域インターンシッププログラム活動報告書  
平成 31 年 3 月 31 日発行  
発行 和歌山大学観光学部観光実践教育サポートオフィス  
〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷 930  
印刷 井手印刷株式会社



